

アゼルバイジャンにおけるワイン生産

1. コーカサス地域はワイン発祥の地とも言われます。この中でもアゼルバイジャンの一部地域では紀元前 3 千年末～2 千年初め頃にはワイン醸造が行われていたとされており、コーカサス有数の上質なワインの産地として知られています。
2. 近代では、19 世紀にドイツ移民によりワインの商業生産が開始され、ソ連邦併合後に生産量は急増し1984年にピークを迎えましたが、1985年、ソ連政府の「反アルコール運動」により国内のブドウ畑、ワイナリーが閉鎖され、ワイン生産は停止されました。
3. ソ連邦崩壊後、アゼルバイジャン政府は 2002 年からブドウ畑の再生、増産及び品質改善を推進しました。ワイン生産再開のため、各ワイナリーはイタリアやモルドバ等から専門家を招致するなどしてワイン生産環境を再整備しました。この結果ワイン生産は拡大し、2018 年には、生産高 1,574 万リットル(2015 年比 1.5 倍)、輸出額 772.1 万米ドル(2002 年 6.4 万米ドル)となりました。
4. 現在、アゼルバイジャンのワイナリーでは、メルロ、カベルネ・ソービニオン、ピノノワール、シャルドネ等世界的な人気品種のワイン生産が行われ、主に輸出に充てられる一方、サペラヴィ、タフクベリ、マドラサ、シルバンシャヒ、アルナ・グイクナ、ミスガリといった、他地域では味わえない特徴ある味わいを有するコーカサス乃至アゼルバイジャンの固有種のワイン生産も続けられています。
5. 国内のワイン産地は、大コーカサス山脈(北部)や小コーカサス山脈(西部)の山麓地域に点在しています。北部には「メイサリ」(シャマフ県)、「シヤビアン」(イスマイリ県)、「サバラン」(ゲベレ県)などの人気ワイナリーがあります。また、昨年アルメニアの占領から解放されたカラバフ地域もワイン産地であり、アグダム県ではかつてアルコール度数 19%の「アグダム」というワインが生産されていました。報道によればカラバフ各地でのワイン生産の再開も検討されているようです。

(以上)